

2021年5月6日

近畿労働金庫  
理事長 石村 龍治 様

## 「2020年度近畿ろうきんNPOアワード」選考結果報告書

2020年度近畿ろうきんNPOアワード審査委員会  
審査委員長 阿部 匡伴

「2020年度近畿ろうきんNPOアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下の通り報告いたします。

### 1. 審査について

今回の審査委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として書面審議による選考とし、互選により審査委員長を選出しました。書面審議では、事務局から各委員に「各委員による事前書類審査の集計結果の報告」と「意見の聞き取り」が行われ、大賞1団体、優秀賞1団体、奨励賞4団体を選考しました。また、小規模な団体向けのはぐくみコースから、はぐくみ賞として2団体を選考しました。

審査委員は下記の通りです（敬称略）。

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

- 審査委員長 阿部 匡伴 （近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
- 審査委員 岡本 瑞子 （NPO法人 子どもNPO和歌山県センター 理事長）
- 山縣 文治 （関西大学 人間健康学部 教授）
- 岡田 智恵 （公益財団法人 コープともしびボランティア振興財団  
事務局長）
- 八尾 高伸 （近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

### 2. 受賞団体の決定にあたって

本アワードは子育て支援をテーマに実施し、近畿2府4県から総計46件の応募がありました。どの応募も甲乙つけがたい状況で、審査委員会での助成団体の選考はたいへん熟慮を要しました。

2020年度の応募は、社会のネットワークが届かない子どもと親に着目したプログラムが多いことに加え、「オンラインを活用した相談・動画配信」、「子育て家庭への食料支援」「テレワークなど働き方の変容による産後うつや虐待の増加に対する取組み」など、コロナ禍の環境に対応した子育て・子ども支援の取組みが目立ちました。

また、「はぐくみコース」には、小規模な団体であるものの専門性や活動の質の高さをうかがわせるプランの応募があり、少ない財源の中で活動を進める市民活動団体にとって、本アワードのような助成が必要であることを改めて確認することができました。

審査にあたっては、事業の「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」

「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」の項目に加えて、「組織の継続性・運営体制・活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、選考しました。

「はばたきコース」では、審査項目の大半で高い評価を受けた2団体を〈大賞〉・〈優秀賞〉に、僅差ではありましたが4団体を〈奨励賞〉に、「はぐくみコース」では2団体を選定しました。（※各受賞団体の応募プログラムの内容や審査講評は、次ページ以降をご確認ください）

また、受賞団体以外の団体についても、その事業や熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを付け加えておきます。

### 3. 今後の提言として

「近畿ろうきんNPOアワード」は、働く仲間の教育ローン利用が、子どもたちの未来と地域の子育て支援につながるという仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして実施され、今回で15回を数えました。

応募プランは、いずれも社会的ニーズにもとづいた切実なものばかりで、「子育て支援」が勤労者にとって共通する社会課題であり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える《ろうきん運動》にとっても大きなテーマであり、まさに《ろうきん》に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんNPOアワード」のような《ろうきん》の特性を生かした地域貢献型・利用者参加型の事業を継続いただきたいと強く要請する次第です。

また、会員推進機構と一体となって進む《ろうきん》として、社会に役立つこのようなプログラムが実践されていることを各会員組合においてもぜひ伝えていただきますようお願いいたします。

※次頁以降の「団体の活動内容」および「応募プログラムの内容」は、応募団体からの申請書の内容にもとづき掲載しています。

## ～はばたきコース～

<大賞 1団体>

■ 一般社団法人 笑いの保育わくわく（兵庫）／助成額 50 万円

子育ての孤立化・虐待を水際で防ぐ、コロナ禍の子育て環境に対応したオンライン支援プログラム

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、大阪府・兵庫県を活動地域に、『おとなも こどもも みんなみんな わくわく』をモットーに、以下の子育て支援事業を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てイベントの企画・運営（バースデーイベント、おやこ学び講座等）</li> <li>○民間企業とのタイアップによる子育てイベント</li> <li>○保育従事者向け研修および学生向け講座（キャリアデザイン無料講座等）</li> <li>○子育てコラム” わくわく保育だより” 執筆</li> </ul>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、コロナ禍の子育て環境に対応した、①オンラインによる育児情報の動画配信、②オンライン子育てサロン&amp;個別相談の提供を内容としている。対象は0歳～就学前の親子で、HPの特設ページに会員登録して参加いただく仕組み。具体的なプログラム内容は以下の通り。</p> <p>①育児情報の動画配信 配信コンテンツは、「離乳食」「読み聞かせ」「トイレトレーニング」「親子遊び」など。</p> <p>②オンライン子育てサロン&amp;個別相談 ・オンライン子育てサロンの定期開催（月に1-2回程度） 教材（事前郵送）を使い、サロン内でワークショップ・会員の交流を実施 ・個別相談（月に1回、30分）</p>
<p>審査講評</p>	<p>コロナ禍で虐待や子育て不安などの問題が深刻化するなか、感染不安で外出を控えている親子を対象に、オンラインを活用した子育て支援プログラムであり、企画にあたっては、先行実施した動画配信の反響と実感を踏まえた内容としている。</p> <p>審査委員会では、コロナ禍のニーズを的確に捉えたものとして、「先進性」「創意工夫」「社会性」「効果と発展性」「新規チャレンジ性」といった多くの審査項目において高く評価した。また、スケジュールや収支計画も具体的に整理されて記載されており、「実現性」「資金計画の妥当性」も高評価であった。</p>

<優秀賞 1団体>

■ NPO法人 こどもソーシャルワークセンター（滋賀）／助成額 30 万円

「この子らを世の光に」生きづらさを抱える若者による地域福祉活動

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、滋賀県大津市で子どもたちの居場所支援として以下の活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○要支援家庭（生活困窮・虐待など）の子どもたちのケア型居場所づくり（毎日開催）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・夕刻を支える夜の居場所として、「トワイライトステイ事業」を実施。</li> <li>・日中の居場所として、「ほっとる一む事業」を実施。</li> </ul> </li> <li>※コロナ禍での一斉休校中は、緊急受け入れもを行っている。</li> <li>○子ども食堂「eatalk」の開催（週2回）             <p>誰でも参加できる子ども食堂で、親子での参加も可能としている。（主には要支援家庭の子どもを対象）</p> </li> <li>○他に、中間就労事業、校内居場所カフェ事業、夜間アウトリーチ事業などを実施。</li> </ul>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、家庭や学校に生きづらさを抱える高校生世代の若者たちが、今まで不登校やいじめ、貧困や虐待などの痛みを感じてきた自らの体験と小中学校時代に当団体で地域のボランティアに支えられ安心感を受けてきた経験を生かして、地域で世の光となる福祉活動を展開することで自己肯定感を高めるプログラムである。</p> <p>具体的には、生きづらさを抱える高校生世代による以下の活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生世代を対象にした県内の「淡海子ども食堂」や「寺子屋プロジェクト（大津市で長期休暇中に行われる学習支援活動）」などでのボランティア活動。</li> <li>○地域の民生委員の協力を得ながら、一人暮らしのお年寄りへの見守り活動。（訪問を通して高齢者の自分史などのアルバムづくりを想定）</li> <li>○当事者としての経験を社会に発信する活動。</li> <li>○当事者である若者と地域住民とで福祉課題を学ぶ学習会。</li> <li>○上記のプログラムを行うためのグループワーク活動。</li> </ul>
<p>審査講評</p>	<p>当団体の地域での居場所活動が4年を経過し、当初小中学生だった子どもたちが高校生世代となり、彼らが受容的な居場所活動だけではなく、学びとアクションを通じた主体的な地域福祉活動に挑戦することにより、自分たちが社会を変えることができるという自己肯定感を高める内容としている。</p> <p>審査委員会では、このような当事者による、自らの経験を踏まえた社会福祉への関わりを通じた活動を、「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」の観点から高く評価した。当事者が主体となった、子どもの居場所活動の新しい展開であり、今後の発展に大いに期待したい。</p>

<奨励賞 4団体>

■ NPO法人 月と風と（兵庫）／助成額 20 万円

WE-AR MEETS！（ウェアーミーツ）～車いす店員がリユース服を子どもたちへお届け～

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、尼崎市の地域で暮らす障がいのある方へのヘルパー派遣を主な事業として、障がいのある方と地域住民が共生できるまちづくりや地域福祉の増進を図ることをめざして活動している。近年の主な活動は、以下の通り。</p> <p>○障がいの有無に関係なく、みんなで銭湯に行く「劇場型銭湯」。</p> <p>○2018年度は、障がいのある方の社会参加を目的としたイベント「ミーツ・ザ・福祉」を主催（4,000人集客）。</p> <p>○2019年より障がいのある方の働く場、尼崎のチャリティショップ文化醸成のきっかけとして「チャリティショップふくる」をコープこうべと提携して開設。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、コープ尼崎近松店内にある「チャリティショップふくる」でアルバイトをしている車いす店員が、尼崎市内のコープこうべの店舗から寄付でもらった子ども服を、子ども服を買えなくて困っている貧困家庭にお宅まで宅配するプログラムである。</p> <p>支援家庭の情報は、尼崎市ユース交流センター、園田子育て支援連絡会、社会福祉協議会、スクールソーシャルワーカー、市内の放課後児童デイサービス、コープこうべと連携して収集し、ピンポイントで困っているご家庭に届けることを内容としている。</p> <p>障がいのある方が、「役割がある」「期待・感謝されることで役に立っている」という感情を持ち、福祉作業所では平均時給 200 円で働いている車いすの人が最低賃金を得る仕事として、これからの自分により希望が持てる就労環境づくりをめざしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本事業は、売れ残ってしまう子ども服のリユース・有効活用を行い、アウトリーチで貧困家庭へ届けるプログラムを実施し、その宅配を車いす店員が「役立ち感」を持ち、最低賃金を得る仕事をめざしている</p> <p>審査委員会では、本事業を通して、同時に複数の課題解決につながる着眼点や、SDGsの視点（【ゴール8 働きがいも経済成長も】、【ゴール12 つくる責任・つかう責任】）からも意義のある事業であり、地域団体との連携・協力（服の寄付はコープこうべから、届け先家庭の選定は社会福祉協議会）が生かされている点も含め、「先進性」「創意工夫」「社会性」「新規チャレンジ性」「市民主体性」の観点から高く評価した。</p>

■ NPO法人 ここ（大阪）／助成額 20 万円

不登校の子どもたちの文化祭「FREEDA BAL」の開催とフリースクールでのコーヒースタンドの運営

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、大阪府全域において、不登校・引きこもりの子どもたちを対象としたフリースクールの事業を行っている。 具体的な事業と運営は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フリースクール・ここ吹田校「あまかり」の運営（約 30 名が在籍） スタディサポート（学習支援）、体育・料理・遠足などの行事、たこ焼き屋出店・地域の商店街でのアルバイト</li> <li>○フリースクール・ここ南吹田校「いどばた」の運営（約 15 名が在籍） 野菜作り、スタディサポート、体育・料理・遠足などの行事</li> <li>○フリースクール・ここオンライン校「えんたあ」の運営</li> <li>○アウトリーチ型訪問支援事業</li> <li>○親の会「おやさんぼ」の実施</li> </ul>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、大阪府内のフリースクールやオルタナティブスクールなどの子どもたちが運営・企画する交流イベントとして、「FREEDA BAL」を開催するプログラムである。</p> <p>不登校である当事者が登壇するシンポジウム、フリースクールなど民間団体のブース出展、リズムワークショップやゲーム大会を実施し、就労体験事業として、コーヒースタンド（CoCoffee プロジェクト）とたこ焼き屋（ここたこプロジェクト）を出店する。</p> <p>本事業を通して、不登校の子どもや保護者への学校外の学びの場や居場所の周知と、大人と子どもや子ども同士の交流を図りセーフティネットを構築するとともに、運営・企画する子どもたちの自尊心の向上を図ることをねらいとしている。</p> <p>シンポジウムでは、大阪府フリースクール等ネットワークや兵庫フリースクール連絡協議会と共催し、連携している大阪府教育委員会や大阪市教育委員会の関係者も招く予定である。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本事業は、コロナ禍で不登校の親子と学校教育との分断が課題となっているなか、不登校であることによって支援を受けることができていない小中学生とその保護者への支援を各種の交流イベントを通して行う企画となっている。</p> <p>実施にあたり、フリースクールのネットワークとも連携し、教育委員会の関係者も招くなど、団体のこれまでの活動実績が活かされている。</p> <p>審査委員会では、これらの活動を「創意工夫」「社会性」「実現性」「新規チャレンジ性」「組織の継続性」「市民主体性」の観点から高く評価した。子どもたちの文化祭開催に関わるプロセスそのものを大切にしたい。</p>

■ KADOMA中学生勉強会（大阪）／助成額 20 万円

「門真の子どもたちにさらなる学べる環境を！」市内在住の中学生・高校生を対象に無料の自習室を開設

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、門真市内の中学校に通う中学生を対象に「居場所・学習支援事業」を実施している。現場の運営から企画まですべて「学生主導」で活動をしている。</p> <p>学習支援は、学力向上のみを目的にするのではなく、生徒たちが大学生などと接することで、大学を身近に感じ、多様な価値観や将来の目標を抱けるよう、大学生がマンツーマン（大学生 1 名に生徒 1、2 名）で指導を行っている。また、クリスマス会や卒所式などの各種イベントも開催している。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、通常の勉強会の活動に加えて、2021 年度より、門真市内の中学生や高校生を対象、無料の自習室を開設するプログラムである。</p> <p>具体的には、中学生勉強会に参加する大学生が自習室の管理者となり、市内の中学生・高校生に自習室を提供し、大学生も管理者を兼務しながら大学の課題や学習の場として利用するという内容であり、門真市の教育環境の向上をねらいとしている。</p>
<p>審査講評</p>	<p>様々な実態調査より門真の子どもたちが置かれている貧困状況や教育環境の厳しさが浮き彫りになり、門真市は当該団体の代表者が生まれ育った地域でもあることから、「何とかしたい」という想いが活動内容から伝わってくる。勉強の場だけではなく大学生との交流や居場所としても機能することをめざし、大学・行政を巻き込む新たな学習支援のモデルとして社会課題に光をあてた事業である。</p> <p>審査委員会では、当事業の「実現性」「社会性」「共感と市民参加」の観点から高く評価した。当事業が門真の子どもたちの学びの環境改善の一助となることを期待したい。</p>

■ わいわい子ども食堂はしもと（和歌山）／助成額 13 万円

【コロナ禍の子育て家庭への食糧支援事業】経済的に困窮の状態にある子育て家庭に食料を届け、社会的孤立を防ぐ。

<p>団体の活動内容</p>	<p>当団体は、和歌山県橋本市で 2017 年 9 月より月 2 回のこども食堂を開始しました。食事は、旬の野菜を使ったものやお月見などの季節に合わせたものを提供し、子どもたちは食後にぬり絵や折り紙や工作をし、不定期に紙芝居や読み聞かせも行っています。また、クリスマスには演奏グループに来てもらい、バイキング形式の食事とコンサートを実施し、子どもたちに楽しんでもらっています。こども食堂の開設時間に合わせて学習支援も行ってきましたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響から休止しています。</p>
<p>応募プログラムの内容</p>	<p>本事業は、コロナ禍の影響により、解雇や雇止めにより経済的な困窮状態におかれているご家庭に食料を届け、社会的な孤立を防ぐことをねらいとしています。</p> <p>具体的には、①声がけすることで社会的な孤立感を和らげ、②不安になりがちな心の支えとなり、③支援が食生活での少しの足しになり安心感や余裕といったものにつながる、これらのことを目的に、市内の対象となるご家庭に毎月食料を届ける取組みとしています。</p> <p>とくにしんどさの度合いが高い「子育て家庭」に限定して食料を届けることとし、橋本市子育て世代包括支援センターと連携して、対象の家庭に食料をお届けする予定です。</p>
<p>審査講評</p>	<p>本事業は、行政との連携により、定期的に続けてきた子ども食堂の地道な活動を活かし、コロナ禍でより困難な状況にある子育て家庭を対象に食料を届け、「社会的な孤立を防ぐ」という熱意と工夫が感じられる。また、橋本市子育て包括支援センターや、食品会社、フードバンク、農家、ボランティアなど地域の様々な団体・市民と連携し、活動を進める事業内容となっている。</p> <p>審査委員会では、「社会性」「実現性」「市民主体性」の観点から高く評価した。取組みではアイデアを出し合い、有意義な活動として進めていただきたい。</p>



～はぐくみコース～<はぐくみ賞 2団体>

■ 子育て支援サークル野の花ほっとスペース（奈良）／助成額 10 万円

子どもを虐待してしまう親の回復プログラム～グループケア支援～

団体の活動内容	当団体は、奈良県で子どもたちが安心して暮らせる親子関係の構築をめざして、ケア活動などの子育て支援を行っている。具体的な活動として「虐待予防を目的に月 1 回の語り合いの場の開催」、「虐待の問題性や適切なしつけの方法などを学ぶ講座の開催」、「ひとり親家庭、リスク家庭に手作り弁当の宅食」、「親子関係の再構築を支援するプログラムの実施」などを行っている。
応募プログラムの内容	本事業は、子どもを虐待してしまう親を対象とした「MY TREEペアレンツ・プログラム」を開催する内容としている。親を責めるだけでは虐待問題は解決はできないとし、人権尊重とエンパワメントの視点から親のケアを重視する内容である。具体的には、13 回のグループセッションと 3 回の個人面接、終了 3 か月後の同窓会を、固定した約 10 名（のべ 170 名）のグループで行うプログラムである。
審査講評	本事業は、孤立しがちな子育て家庭への支援として、虐待の終止を目的とし、虐待をしてしまう親へのケアを人権尊重とエンパワメントの視点に立った新しい視点のプログラムである。関係機関との連携や丁寧な進め方、コミュニケーションの実績もある。審査委員会では、「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「組織の継続性」を高く評価した。丁寧にニーズを把握し、寄り添う活動を期待する。

■ サステナ u（ユ一）（奈良）／助成額 10 万円

ちきゅうと遊ぶ・まなぶ・くらす～ちきゅうの子どもの活動時間「ちきゅうクラブ」（T シャツを 1 からつくろう）

団体の活動内容	当団体は、奈良県天理市で地域に根ざした子育てや暮らしのなかの課題を見つめることを通して、子どもを真ん中にした持続可能な社会をめざし、楽しみながら活動を行っている。2020 年は、子どもたちが自然の中でありのままの自分とつながり、自由であると感じ、自分の「やりたいこと」を「やりきれる」時間と場所を提供することを目的に「森のがっこう」を実施した。
応募プログラムの内容	本事業は、天理高原の自然に囲まれた畑をフィールドに、地域の方の協力を得て、綿の栽培から収穫、収穫後の生活利用までを体験するプログラムである。「今着ている服、どこでどのように作られるの？」からはじめ、綿を種から育てて、みんなで 1 枚の T シャツをつくる内容としている。
審査講評	「森のようちえんウィズ・ナチュラ保護者会」が前身の団体で、幼児期の主体的で多様な生活経験を通じ、「子どもの豊かな育ちを支える」という着眼点がユニークである。 審査委員会では、「先進性」「創意工夫」「実現性」「新規チャレンジ性」の観点から高く評価した。子どもの思いを大切に活動した活動を期待する。